

日時 2019年12月12日(木)
19:00~20:30 (18:30開場)

会場 大竹財団会議室
東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円
学生、大竹財団会員=無料
定員30名【要予約】

主催 一般財団法人
大竹財団

Web予約
PC・モバイル共通



<http://bit.ly/36Gp0nr>

私たちが大量消費して捨てた
プラスチック・ゴミのゆくえ

塑料王国 PLASTIC CHINA

プラスチック★チャイナ



アジアドキュメンタリーズ配信作品
<http://asiandocs.co.jp>

プラスチック・ゴミの廃棄を 中国の貧困層に依存していた日本

世界中から輸入したプラスチックのゴミをリサイクルする中国の小さな家族経営の町工場の日々。そこで働く父親と暮らす少女イージェは、幼い妹や弟の世話をしながら、工場の仕事を手伝って暮らしています。イージェは学校へ行く夢を抱いていますが、飲んだくれの父親は、許してくれません。学校へ通わせる金はないというのです。仕方なく、ゴミ山から見つけてきた雑誌や広告を教科書代わりに、言葉を学ぼうとするイージェ。一方、雇い主のクンは、農村出身で、生きていくためにできることは工場を必死で営むしかないと嘆きます。一人息子をようやく学校へ通わせることができましたが、今度は衝動的に買った車で莫大なローンを背負うことになりました。いつまで学校へ通わせることができるのでしょうか…。黒煙を上げ、野焼きされる廃棄物。有害物質が漂うゴミ山で子どもたちは1日中遊んでいます。経済発展を遂げた中国社会の貧困層の暮らしをみつめる衝撃的ドキュメンタリー。



塑料王国 PLASTIC CHINA プラスチック★チャイナ

中国政府は、プラスチック・ゴミの世界的な輸入大国でしたが、2017年末それらの輸入を禁止しました。このドキュメンタリー映画が中国社会に与えた影響によると言われています。それによって、日本国内で廃棄されたプラスチック・ゴミの保管量が増加するなど、日本にも影響を与えています。つまり、日本は自国の廃棄物の処理を中国の貧困層に依存していたこととなります。さらに、そこで働く人々の健康をも蝕んでいます。こうした現実には、日本国内でも

あまり知られていません。早急に使い捨てプラスチックの段階的廃止を打ち出したフランスや台湾に比べ、日本は無策と批判されても仕方がない状況です。アジアの未来を考える時、国内だけに目を向けていては、根本的な問題解決にはなりません。社会問題は、国、地方、企業、家族、そしてひとり一人の人間の小さな心がけや思いやり、気づかいが社会を変えていく力になるのです。



監督：ワン・チウリヤン／音楽：タイラー・ストリックランド／製作：CNEX／2016年／中国／82分／日本語字幕配信：アジアドキュメンタリーズ

上映会のご予約・お問い合わせ

一般財団法人 大竹財団

東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階

JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分

<https://ohdake-foundation.org> ☎ 03-3272-3900



Google
マップ
QRコード

スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

